

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	URIII期ニップール出土の行政経済文書における日付表現について
Author(s)	峯, 正志
Citation	ニダバ, 19 : 53 - 60
Issue Date	1990-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047209
Right	
Relation	



UR III期ニップール出土の行政経済文書 における日付表現について

峯 正 志

I. はじめに

ウル第三王朝期（以下 UR III期）のシュメールの行政経済文書には、多くの場合文書末に年名が記されており、我々はこれによって、その粘土板が何年に書かれたものかを判断する。例えば、

mu ^damar-^dsuen lugal-àm 「アマルシンが王になった年」

とあれば、それはアマルシンの治世1年に書かれたものであり、

mu ^dš-u-suen lugal-e urí^{kⁱ}-ma-ke₄ ma-da za-ab-ša-li^{kⁱ} mu-hul-a

「ウルの王、シュシンがザブシャリの国を破壊した年」

とあれば、それはシュシンの治世7年に書かれたものであると判断できるのである。

しかし、延々と数字を続けていく西暦や、二度と同じものを用いない元号と異なり、大きな事件を起点にしたこの年名は、別の年を同じ年名で表すことがあるという欠点を持っている。¹⁾ 例えば、

mu ša-aš-ru^{kⁱ} ba-hul 「シャシュル（都市名）が破壊された年」

とあれば、シュルギの治世42年も、アマルシンの治世6年も表し得る。後者が、

mu ^damar-^dsuen lugal-e ša-aš-ru^{kⁱ} mu-hul

「王のアマルシンがシャシュルを破壊した年」

あるいは、

mu ša-aš-ru^{kⁱ} a-rá-II-kam ba-hul 「シャシュルが二度目に破壊された年」

と書かれた場合は、はっきりと区別がつくけれども、通常は最初の例のように省略されて書かれるので、年名だけからは判断できないのである。

このような場合、粘土板の内容からいずれの年のものであるかを判断しなければならない。例えば、シュルギの治世にしか現われない地方長官や責任者の名前が現われた場合には、シュルギの治世に書かれたものであると考えるべきであろう。

しかし、粘土板の内容以外にも判断の手がかりとなるものがあるように思われる。それは、文書中の表現形式であると筆者は考える。文書の文体や書式はかならずその時代の特徴を反映するものだからである。本稿は、UR III期のニップール出土の行政経済文書にお

ける日付表現を対象に、そのような文体や書式が年代決定の一つの手がかりとなる例を示すことを目的とする。

II. 日付表現の類型について

本稿における「日付表現」の定義を書いておく。それは、文書中に現われる年月日のうち、「日」の部分を表す表現のみを指す。

さて、日付表現にはそれほど多くの種類があるわけではない。行政経済文書で普通見られるのは次の二種類である。(Xは数字を表す。)

i) $u_4-X-kam^{2)}$

ii) $u_4-X\ ba-zal (/ba-ta-zal, ba-ra-zal)^{3)}$

このほかにもいくつか別の表現があるが、在証例は多くない。⁴⁾ ニップールではこのほかに次のような表現が見られる。

iii) $u_4-X\ zal-la^{5)}$

これは他の都市からの泥章には見られないニップール独特の表現である。⁶⁾

さて、以下の章で筆者が例証しようとしているのは次のことである。ニップールでもちいられる日付表現 i), ii), iii)のうち、ii), iii)に関しては、年代的に相補分布に近い分布を示す。即ち、iii) $u_4-X\ zal-la$ は、ii) $u_4-X\ ba-zal$ より年代的に古く、時代が下がるにつれて iii) は ii) に取って代られる。従って、 $zal-la$ が用いられた文書は $ba-zal$ が用いられた文書より古い可能性が高い、ということである。

そこで、次の章では、ニップール出土の行政経済文書における日付表現の年代的分布を表にすることによって、上で述べたことを明証する。また、第4章では、年代的に問題となるいくつかの粘土板を分析し、上で述べたことの妥当性を調べる。

III. ニップール出土の行政経済文書における分布

ニップール出土の行政経済文書における日付表現の年代的分布はつぎの通りである。⁷⁾ ただし、この表は、これらのテキストを出版した著者の年代判定に基づいて作成した。従って、これらの判定のいくつかは、筆者には疑問である。このことは第4章で議論する。

	zal-la	ba-zal
§39	607	
§40	184; 300	

§41		
§42	C105; C178	C203; C314; C316; MVNIIII196
§43		
§44	622; C8	
§45		
§46		
§47	3; 86; 413; 922; 6; C85	
§48	178; 292; 297; 416; 947; EN5 MVNIIII357	
AS1	24; 752; NSAT228	
AS2	168	
AS3		MVNX153
AS4	C91; C211	110; 895; 962; 969; 972
AS5	MVNIIII309;MVNIIII229;YOSIV203	501; C230
AS6	378; 926; 936; 946	377
AS7	88; 477; 803	928; C104; C317
AS8	63; 190; 494; 633; C75	23; 521; 545; C125
AS9		530; 535; 540; 542; 553; NSAT937

§S1	894; MVNIX86; YOSIV38	132; 691; 711; 824; C4; C41; C97; C107
§S2	272; 458	130; 502; 648; C175; C265
§S3	NG124	285; 532; 552; 782; C66; C199
§S4	71; 435	56; 914; MVNIII264
§S5		102; 314; 420; 589; 662; C43; C53; C187; MVNV139
§S6	403	187; 426; 445; 468; C152; C188; C295; C298
§S7	453	50; 193; 188; 280; 282; 291; 624; 859; C5; C162; C195; C260; C299
§S8	466	122; 450; 549; 579; 672; C71; C123; C155; C243; C256; C266; MVNVIII159
§S9		72; 124; 448; 503; 783; C243; MVNIII292
IS1	419	127; 135; 173; 206; 258; 281; 509; 637; 654; C202; C284; JCS3; YOSIV281
IS2	742; C258; C306	12; 65; 96; 107; 111; 204; 210; 253; 310; 428; 438; 449; 452; 828; 858; C79; C84; C100; C135; C235; MVNIX191
IS3		44; 99; 153; 211; 214; 216; 246; 248 256; 262; 319; 421; 558; 580; 615; 651; 719; 769; 944; C81; C115; C136; C137; C138; C139; C140; C141; C143;

		C144; C145; C146; C147; C148; C149; C150; C151
IS4		213; 250; 287; MVNIX89
IS5		
IS6		977; C274

この分布表を見ると、シュルギの治世には *zal-la* であった日付表現が、時代を経るに従って次第に *ba-zal* を用いた日付表現に変わっていく様がよく分かると思う。シュルギの治世にはもっぱら *zal-la* であったものが、アマルシンの治世になると両者が共存するようになり、シュシンの治世になるとほとんど *ba-zal* となっているからである。ただ、ある年を境に *zal-la* が一斉に *ba-zal* に変わったわけではないので、書式の変化というよりも、書記の好みの変化（流行？）といった性質のものである可能性が高いように思われる。

IV. 問題となるいくつかのタブレットについて

前章で、日付表現が年と共に変化していくことを例証した。この章では、この現象に一見すると合わないように見えるいくつかの粘土板を吟味してみる。

表を見て、明らかにこの現象に反すると思われるのは、シュルギの治世における、*ba-zal* の存在である。M.Çiğ & H.Kızılyayは、C178を除いて、C105; C203; C314; C316の4個の粘土板をシュルギの治世42年としているが、これはいかなる根拠によるものであろうか（C178のみは *šulgi42/ Amarsu'ena6* としている。）。既に述べたごとく、シュルギの治世42年はアマルシンの治世6年と同じ (*mu ša-aš-ru^{ki} ba-hul*) である。粘土板の内容だけでは、どちらの年のものか判断できないように思われる。ただ、ここで重要なのは、M.Çiğ & H.Kızılyayの挙げたシュルギの治世における *ba-zal* の例と思われる三つの例は（C105は *zal-la* の例。）、すべて、問題のシュルギの治世42年だけに集中しているということである。他の年のものであれば明らかに例外と認められるけれども、どちらとも取れる年のものだけに、明白な例外と捉えるにはいささか疑問がある。また、(MVNIII196を除いて) これらの例以外に、シュルギの治世における *ba-zal* の例がないことから、この3例はアマルシンの治世6年のものである可能性が高いと考えられる。一方、MVNIII196は、Owen (p.18)によると、出土地が Nippur(?)とあり、疑問符が付いている。p.22にも Possibly Nippur text との記述があり、この粘土板が本当にニップール

出土のものかは必ずしも明らかでない。従って、4例とも、反例と見るには根拠が弱いと言わざるをえない。

また、シュルギの治世26年とイビシンの治世3年も同じ(mu si-mu-ru-um^{ki} ba-hul)である。YOSIV8は、Keiserはシュルギの治世(35年)としているが、イビシンの治世の可能性もある(シュルギの治世35年は誤りで、シュルギの治世26年か、または、イビシンの治世3年が正しい。)⁸⁾

これらの、一見、反例に見える例も、すべて年の確定できない年名のものに限られており、「シュルギの治世には zal-la が用いられ、次第に、ba-zal に取って代られていった。」という傾向を否定するには、全く不十分であることが分かる。

V. ba- 形と -a 形について

このような、動詞の ba- 形と -a 形の交替は、実は他の表現にも見られるのである。Kang (1972) p.243 に次のような記述が見られる。⁹⁾

It seems that zi-ga is the earlier formula, because it appears only during \$ulgi's reign, and the word ba-zi is used from Amar-Sin's reign. There is no major difference in these two formulas as to the meaning, except for chronology and types of formulas.

本稿で指摘した現象は、まさに、Kang が ba-zi/zi-ga に関して指摘した現象と平行的なものである。

このような ba- 形と -a 形の交替は、両者が、微妙なニュアンスの違いはともかく、意味的に非常に近いものであることを示している。このことは、接頭辞 ba- 及び、接尾辞 -a の文法機能を解明するうえで、重要な手がかりの一つになると思われる。

また、動詞 zi 及び zal の、ba- 形から -a 形への移行の時期がほぼ重なるというのも、興味深い事実である。

VI. 結論

以上述べてきたことをまとめてみる。

ニップール出土の行政経済文書には、日付表現において年代的な変化が見られる。それは、

i) u₄-X zal-la -----> ii) u₄-X ba-zal

という変化である。シュルギの治世においてはもっぱら i) が現われ、アマルシンの治世においては i), ii) が共存し、シュシンの治世以降になるともっぱら ii) が用いられる。

このことを考慮すれば、同じ年名が現われていても、zal-la が用いられている粘土板は、ba-zal が用いられている粘土板より相対的に古い可能性が高いと考えられる。

VII. おわりに

本稿では、粘土板の書かれた時期によって日付の表現が異なることを明らかにした。この書式の違いが単なる時期的なものかそれとも文体的な違いも含むのか、ba- と -a の交替は ba-zal/zal-la, ba-zi/zi-ga 以外にも見られるのか、他の地域にもこのような傾向が見られるのかといった問題がこれからの課題となるであろう。¹⁰⁾

註

- 1) これは勿論、現代の研究者からみた欠点である。区別しようと思えばできたのであって、混乱しないと考えたからこそ省略形を用いたのである。元号でも、大正や昭和を省いた私的な文書は、未来の研究者が苦勞するかもしれない。
- 2) u_4 は「日」の意。それに序数詞を作る接尾辞 -kam を接辞したものの。「第X日」という表現である。
- 3) 動詞 zal 「(日)が過ぎる」に、接頭辞 ba-が付いた形。ba-ta-zal は、奪格名詞に呼応する接中辞 -ta- を伴った形。ba-ra-zal は、その異形。
- 4) 例えば、MVNVI141 (10-àm mu-ğál) 等。MVNIV66 (itu-MIN-ab-ta u_4 -7-àm ba-ra-zal) や MVNIV83 (itu-^ddumi-zi-da-ta u_4 -1-àm [ba-ra-zal]) のように、 u_4 -X- の後に -àm が現われることもある。略号は、註7) 参照。
- 5) 動詞 zal に接尾辞 -a が付いた形。
- 6) 他の地域では全く見られないというわけではないようである。1例だけだが、次の例がある。

J.P.Grégoire. Archives Administratives Sumériennes. 1970. Paris. 78(CFC8)

itu-MIN-ab-ta u_4 -5-àm zal-la (イビシンの治世1年7月5日)

これは Umma 出土の粘土板である。

- 7) ここで用いられる略号は次のとうり。

Š = シュルギ; AS = アマルシン; ŠS = シュシン; IS = イビシン

C=M. Çiğ & H. Kızılyay. Neusumerische Rechts- und Verwaltungsurkunden aus Nippur-I. 1965. Ankara.

EN=M. Civil. "Appendix A: Cuneiform Texts" in M. Gibson. Excavations at Nippur Eleventh Season. 1975. Chicago & London.

JCS=D. I. Owen. "Neo-Sumerian texts from American collections, I." Journal of Cuneiform Studies. Vol. 24. p. 137-173. 1972

MVNIII=D. I. Owen. Materiali per il Vocabolario Neosumerico. Vol. III. 1975. Roma.

MVNVIII=D. Calvot. -G. Pettinato. -S. A. Picchioni. -F. Reshid. Materiali per il Vocabolario Neosumerico. Vol. VIII. 1979. Roma

MVNIX=D.Snell. Materiali per il Vocabolario Neosumerico.Vol.IX. 1981. Roma
NG=A.Falkenstein. Die neusumerischen Gerichtsurkunden. 1956. München.
NSAT= M.Sigrist. Neo-Sumerian AccountTexts in the Horn Archaeological
Museum. 1984. Berrien Springs.
YOSIV=C.E.Keiser. Yale Oriental Series Babylonian Texts. Vol.IV. (Selected
Temple Documents of the Ur Dynasty.) 1919. New Haven.

記号のつかない数字だけの粘土板は、D.I.Owen, Neo-Sumerian Archival Texts,
Primarily from Nippur in the University Museum, the Oriental Institute and
the Iraq Museum. 1982. Eisenbrauns. より。

- 8) YOSIV8は、表に載せていない。
- 9) S.T.Kang. Sumerian Economic Texts from the Drehem Archive. 1972. Urbana,
Chicago,London. Kangのこの指摘は、ドレヘム出土の行政経済文書を対象にしたもの
である。
- 10) 他の地域から出土した行政経済文書の日付表現については、筆者も予備的な調査を
行なってきた。ニップール出土の行政経済文書に見られるほどの顕著な傾向は見られ
ないように思われるけれども、さらに調査を進めることは必要であろう。